



壁新聞による小学校の紹介、交流		(2) 小学校との連携・交流
公立保育所	さつきが丘第一保育所	
<実施時期>	11月～2月	
<幼児期の終わりまでに育って欲しい姿に繋がる部分>		
「協調性」「思考力の芽生え」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」		
<活動のきっかけ>		
<ul style="list-style-type: none"> ・就学前検診で行った小学校がとても大きくてびっくりした。もっといろんな場所見てみたい ・毎年、年長が学校と交流をしているけれど、今年はできないのはとても残念。行くことが難しいのであれば、写真などを見てみたい。 ・就学前健診後に子ども達が、「校庭に山があった」「体育館広かった」など、それぞれが行った小学校の様子や気づいたことを保育者に伝えたり子ども同士で話していて、小学校生活に興味や関心が高まっている姿が見られた。 		
<活動のねらい>		
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校生活への関心が高まり、就学に期待を持つ。 		
<経験する内容>		
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校はどのようなところか、何をするのか等保育所との違いを見つけたり、興味を持つ。 ・小学校と保育所の違いや、物の大きさに気づく。 ・共通の話題から考えたり、友達の前で自分の意見を発表したり、友達の話聞く経験をする。 ・量や文字や数字に関心を持ち、読んだり書いたりする。 		
<新型コロナウイルス感染症に対する活動の工夫>		
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で実際に小学校へ見学に行ったり、1年生と交流するなど例年と同じように触れあう交流は難しいが、小学校への興味や関心を伝えるなど、小学校へ発信する機会を持ち、連絡を取り合った。子ども達にとっては直接見たり体験することが理解につながるの、写真等を活用し、視覚から興味を深め小学校生活への不安を少なくしていった。 		
<活動の内容>		
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校に、教室や、図書室などの特別教室、校庭、体育館などを撮影した写真を提供していただき、保育者がイラストやメッセージを付けて、壁新聞を作成し、子ども達が見える場所に掲示した。 ・保育所にはないコンピューター室や音楽室、図書室等はどんな部屋なのか、楽器や体育館の広さや跳び箱の高さ等保育所と比較した文章を入れて想像できるようにした。 		
		

＜活動でみられた子どもの姿＞

・小学校の大きさ（校庭、跳び箱、図書室の広さ等）に驚いていた。
 ・教室の壁に貼ってある係の表を見て、「かかっている何をするのかな？」「きゅうしょくとうばんって、どうしてしろいふくをきてるの？」等、写真の細かい部分にも興味を持っていた。コンピューターや音楽室のドラム、バスケットゴールなど保育所には無いものにも目を輝かせて見ていた。
 ・写真を見て小学校について気付いたことを話し合いの中で伝え合った。様々な質問や疑問があったが、その中から「体育館では何をするのか？」「音楽室には楽器がどうしてたくさんあるのか？」「給食当番はどんなことをするのか？」「係ってどんな係があるのか？」と4つの質問を小学生に聞くことになった。

・写真のお礼を言いたい、という意見もあったため、子どもの思いをどう伝えたら良いかを話し合っていく中で「おてがみ」を書きたいという意見が子ども達から出る。

ひらがな表を見ながら文字を書いたり、文字が難しい子は絵を描いた。



＜環境構成・教材や保育者の援助等＞

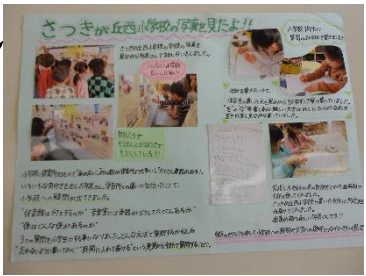
・係や当番など、小学校で新しく体験することとなる生活のきまりについて、給食という保育所と共通するテーマを取り上げ、興味を持ちやすくする。

・写真の様子を細かく見ることで、新たな疑問や質問の言葉が多く聞かれた。子どもが主体的に取り組めるよう、子どもの気づきを大切に、友達と一緒に考えて意見を次に繋げられるように、ゆっくり話し合える時間を持つ。

・壁新聞から興味の広がりを感じられたため、友達との言葉での伝え合いができるよう話し合いの環境を作った。

・ジャガイモ堀りでお世話になっている地域の方に手紙を書いたり、正月遊びで手紙ごっこの経験があったことから手紙を書きたいと意見が出た。子どもからの意見を取り入れることで、さらに文字に興味を持ち書く姿につながった

活動の様子を保護者にも壁新聞で知らせ、共有しました。



＜成果と今後の課題＞

・写真のお礼と小学生や先生に聞きたいことの手紙を所長が小学校へ届ける。年長児からの手紙に対して、1年生の国語で手紙の書き方を学ぶ授業があるため返事を書いてくれるとのことであった。後日1年生が書いた4つの質問に対しての返信を担当が届けてくれた。保育士が手紙を読みあげたり、子どもが手紙を見ることで、保育所に在籍していた1年生や兄弟からのものもあり、小学校をより身近に感じる様子が見られた。小学校側が協力してくれたおかげで、就学に対して期待が高まった。今後もコロナ禍は続くと思われるので、状況に応じて交流の方法を工夫していく必要がある。

＜カリキュラムコーディネーターのコメント＞

「コロナ禍」において、従来の小学校との交流活動の実施が難しい中で、小学校と連携して、写真・イラスト・メッセージで壁新聞を作成したことで、子ども達の小学校への興味関心や期待が高まったことがとてもよく伝わってきました。壁新聞をきっかけに、小学校にお礼と質問の手紙を書く活動につなげたことで、必要感をもって意欲的に文字に親しみ、活用する経験になりました。壁新聞や手紙などの文字や写真を介したやりとりは、気持や情報を分かち合って伝え合うことや、経験をじっくりと振り返ることなどの良さがあり今後も継続が望まれます。